

東 日本大震災、この複合災害を背負った福島県民に7年の歳月が経過した。時間は災害の記憶を風化させるが、ふるさとの山河と人間の営みが、太古の昔から続いていたことも強く教えてくれる。このたびの断絶を強いる状況にあらがい、地元の歴史・文化を今に伝えるさまざまな資料を保全し、歴史叙述をもって生きるあかしを立てる取り組みが進められている。

入場無料

事前申し込み不要



シンポジウム

— 地元から立ち上がる資料保全と歴史叙述 —

ふくしまの未来へつなぐ、伝えるⅡ



開催日時

2018年

4月21日 土

13時～17時30分(予定)



開催場所

郡山市民プラザ大会議室

郡山市駅前二丁目11-1 ビッグアイ7階

※JR郡山駅西口(エスパル口(北口)改札)を出てすぐ、郡山モルティ店のエレベーターをご利用ください。

主催

ふくしま歴史資料保存

ネットワーク(略称:ふくしま史料ネット)

〒960-1296 福島市金谷川1番地

福島大学行政政策学類 阿部浩一研究室 気付

Tel:024-534-9193 (福島県歴史資料館)

共催: 科学研究費補助金基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」(研究代表者・奥村弘) 研究グループ、公益財団法人福島県文化振興財団

後援: 福島県教育委員会、大熊町教育委員会、郡山市、郡山市教育委員会、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター、福島大学資料研究所、福島民報社、福島民友新聞社、河北新報社